

病害虫発生予察注意報 第3号

病害虫名 イネいもち病 (穂いもち)

1 発生予想 今後の天候によっては、穂いもちが多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

- (1) 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生は例年に比べて平年並～多い状況で(表1)、上位葉に病斑が確認されたほ場もあり、穂いもちへ移行しやすい状態となっている。
- (2) 葉いもち発生予測モデルBLASTAM及びBLASTAM-NAGANOによると7月は2～4日、9～12日、21～23日にかけて広域で感染好適条件が出現し(表2)、病勢が急激に進展したほ場も見られ、病原菌密度が高いと推定される。
- (3) 現在、水稻の生育は一部地域で低温や日照不足が影響し、平年並～やや遅れており、軟弱傾向でいもち病に感染しやすいほ場が見られる。特に、あきたこまちなど早生品種は穂ばらみ～出穂期を迎え、穂いもちへ移行しやすい時期となっている。
- (4) 7月27日気象庁発表の1ヶ月予報によると、天候は晴れの日が多いものの、寒気や湿った気流の影響で一時的曇りや雨の日がある見込みで、今後降雨により葉いもちから穂いもちへ移行し、穂いもちが多発する恐れがある。

4 防除対策と留意点について

- (1) 水田の見回りを実施し、葉いもちの発生が多いほ場では、液剤や粉剤を穂ばらみ期と出穂期に2回散布する。出穂期前後に曇雨天が続く場合には、さらに出穂5日後と10日後に追加散布を行う。
- (2) 無防除のほ場では、葉いもちの激発ほ場も見られるので、早急に防除を実施する。また、いもち病が多発しやすい抵抗性の弱い品種(コシヒカリ等)や多肥ほ場では防除を徹底する。苗箱施薬により、いもち病の予防を行っているほ場では葉いもちの発生が抑えられているが、穂いもちに対する効果は期待できないので、上位葉に病斑が見られる場合には防除を実施する。
- (3) 使用農薬は長野県農作物病害虫・雑草防除基準に基づいて選定する。また、農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守する。なお、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統剤の連用を避ける。
- (4) 農薬散布にあたっては、周辺作物への飛散防止に十分注意する。
- (5) 今後の発生予察情報及び気象情報に留意する。

表1 地域別の葉いもち発生状況：病害虫防除所巡回調査(7月25日～31日調査)

地域	調査ほ場数	発病ほ場率(%)注1)		平均発病株率(%)注2)		主な発生地域
		本年	平年注3)	本年	平年注3)	
東信	16	93.8	65.6	48.8	32.9	上小～北佐久地域中山間部
南信	20	50.0	43.2	6.0	8.0	諏訪～上伊那地域
中信	21	57.1	41.2	15.0	11.8	塩尻～木曾地域
北信	17	76.5	55.9	28.7	27.9	飯山地域と長野地域中山間部
県全体	74	67.6	48.9	23.3	19.5	

注1) 発病ほ場率：調査ほ場における葉いもち発生ほ場の割合

注2) 平均発病株率：発生ほ場の発病株率を平均したもの

注3) 平年は過去10年間(平成9年～18年)の平均

表2 AMeDAS データによる葉いもち感染好適条件の判定結果 (平成19年)

地点	佐久市中込	立科町芦田	軽井沢町追分	上田市古里	東御市新張	諏訪市湖岸通り	原村八ッ手	伊那市高遠	辰野町中央	飯島町七久保	飯田市高羽町	飯田市南信濃	阿智村浪合	南木曾町読書	木曾町塩渕	木曾町開田高原	松本市沢村	松本市奈川	塩尻市木曾平沢	安曇野市穂高	大町市大町	白馬村北城	長野市箱清水	信州新町牧田中	信濃町柏原	飯山市大道東	野沢温泉村豊郷	
7/1																												
2	●	●	△	○		●	△		●					○		△												
3												○				△				○	●	●	△		●		●	●
4		●	△																		●							
5											●														△			○
6																												
7																												
8																												
9		●				●											●											
10			△				△		●	●		○		●	△	●	○				●	●						
11	●	○	△	●								○					○			●	●							●
12	○			●								●	○	●		△					●	●		●	○	●	●	●
13																												
14			△				△	○	○		●	●	△	●	○	△		△	△									
15																												●
16					○				○							△			○								●	●
17																												
18		△											△						○	○	△			●		●		
19										○		●								○	○	△			●		●	
20																												
21	○	●	△		△	●	○		●			○		●	○	△		○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22																○									●	●	●	○
23	●		△	○	○		○		●									●						●		△		○
24																												
25																												
26																				●		●			○	○		

●：好適条件 ○：準好適条件 (好適条件にやや満たないもの)
 △：準好適条件の内、濡れ時間の平均気温または前5日の平均気温が18℃以下
 ※表中の地点名はAMeDAS観測所の所在地

<葉いもち発生予測モデルBLASTAM 及びBLASTAM-NAGANO について>

いもち病 (カビにより引き起こされるイネの最も重要な病害) の発生を予測するため、AMeDAS (アメダス) データをもとに、温度、葉の濡れ時間等から感染に好適かどうか判断するコンピューターを使ったシステム。

いもち病の感染には、気温と葉の濡れ時間の長さが関係する。好適条件とは10時間以上の濡れ時間と、濡れている間の平均気温が必要温度を満たし (15~25℃で濡れ時間により異なる)、かつ、前5日間の平均気温が20~25℃の場合である。準好適条件とは、濡れ時間の不足や平均気温の過不足など、好適条件にやや満たない場合のこと。

病虫害防除所 所長 原孝章
 担当 発生予察課 福本匡志
 電話 026-248-6471
 FAX 026-248-1069
 電子メール bojo@pref.nagano.jp